

満開の桜に魅入る

成東高校「観桜會」

4月3日の午後5時半、成東高等学校の桜がライトアップされ、市民のための「観桜會」が行われました。

成東高校同窓会、PTA等で組織された成東高校観桜会実行委員会が主催となり、成東高校の見事な桜を高校の関係者以外の市民の方にも、是非みてもらいたいと思い企画されました。

校舎の前には枝垂桜が、校庭の脇を進んでいくと何本もの桜が満開に咲きほころび、体育館の裏側にも樹齢100年前後になる大きな桜の樹が市民を待ち受けていました。

来場者は、ライトアップされた桜を觀賞したり、写真を撮ったりするなど、春の夕べを満喫していました。



ライトアップした桜に目を奪われます



市民活動は自立できるのか

まちづくりシンポ(進歩)ジウムinさんむ

3月22日、成東文化会館のぎくプラザで、「まちづくりシンポ(進歩)ジウムinさんむ」が開催されました。

「市民活動の自立」～市民活動の可能性と「協働」の意味～と題した、早瀬昇氏(社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事・事務局長)の講演と、「今市民活動に何が求められているのか？」をテーマとした、市民活動団体代表者によるパネルディスカッション(コーディネーター:千葉大学関谷昇准教授)などが行われ、延べ約140人の参加がありました。

シンポジウムの目的は、市民活動に焦点を合わせ、山武市のまちづくりや協働のあり方を考えようとするもの。

早瀬氏は、実体験談を交え、魅力ある話し方で参加者の笑いを誘いながら講演。参加者からは、「講演はおもしろかった。自立するには、無理せず上手に頼ることも大切なのだと思った。」「パネリストの活動を聞いて、それぞれの自発的な活動が結果的に地域の活性化につながっていると感心した。」などの感想が聞かれました。

主催:山武市・財団法人自治総合センター 後援:総務省・社会福祉法人山武市社会福祉協議会

海外地理名誉博士母校の蓮中で講演

演題「地球なるほど面白地理講座」

3月12日、初代海外地理名誉博士で世界遺産マイスターの称号を持つ片岡英夫さん(蓮沼在住)が母校の蓮沼中で講演を行いました。

蓮沼地区青少年相談員が学校の協力を得て地域活動として開催したもので、在校生88(1・2年生)人が広聴しました。

講演の冒頭片岡さんは、地理に興味を持ったのは中学の時、現在の校長先生が地理の担任で「お前の成績はすごいな!」と褒められたのがきっかけと縁を語りました。

演題のとおり、北極と南極ではどちらが寒い?などクイズ形式を折りまぜた楽しい内容でした。生徒からは、「塩分の濃い死海で体身が浮くなら、家の風呂に塩を入れれば浮くか?」「食べられる世界遺産はないか?」という質問も飛び出すなど終始和やかな講演でした。



母校で講演の片岡英夫さん